

研究授業のために降園・下校時間が変わります

本日7校時目に小中部3年3組と中学部1年1組で研究授業を行います。子どもたちの学力向上のため、教師の指導力の向上を目標に毎年行っています。実施にあたっては、お子様のお迎え時間の変更等、大変ご迷惑をおかけしますが、何とぞ、ご理解・ご協力をお願い致します。研究授業を行うにあたり、事前検討会を開き、活発な意見交換を行ってきました。今回の研究授業では、「視聴覚教材の活用」や「Team Teaching」など新しい試みで授業の活性化を図っていきます。なお、研究授業クラス以外の小・中学のお子様の下校時間から研究授業開始までの時間が5分しかありません。研究授業開始後は、お子様のお引き渡しは事務局となります。無理を言いますが、お迎えの時間の厳守をお願い致します。



(降園・下校時間)

幼稚部さくら普通降園時間	: 12:20	幼稚部さくら延長降園時間	: 13:45
幼稚部もみじ降園時間	: 13:45	小・中下校 (研究授業クラス以外)	: 13:55
研究授業クラス (小3-3、中1-1)	: 14:50		

アメリカ文化のハロウィーンについて



今日は、ハロウィーンです。最近では日本でも盛んになり、仮装など楽しむ人が増えました。私が未だ学生の頃、いきなりシーツを体に巻き付けた格好で電車に乗り込んできた外国人を見て、驚いたことがありました。これが、私のハロウィーンとの出会いでした。ところで、ハロウィーンの起源を知っていますか？諸説あるのですが、その一つを紹介します。キリスト教では、11月1日を諸聖人の日もしくは万聖節を称して、すべての聖人と殉教者を記念する日と定めていますが、クリスマスにイブがあるように、この諸聖人の日にもイブがあります。英語でHallowと言うそうですが、Hallow's eveが訛ってHalloweenになったようです。ただし、これはキリスト教会が始めた行事ではなかったそうです。古代ケルト人、現在のスコットランドなどで暮らしている人たちの祖先ということになりますが、彼らの年越しの祭りがキリスト教と融合し、民間信仰のように広まったそうです。いくら日本でも盛んになってきているとは言え、本場アメリカの盛り上がりは凄いですね。アメリカの文化を感じます。大人も子どもも楽しめるものですね。Happy Halloween!

子育ては難しい！

「大人は、誰もはじめは子どもだった」—これは『星の王子さま』にある有名な一節です。時代や国は違っても、子どもは未成熟な大人である、という考え方は共通です。しかし、子どもは保護しなければならない、あるいは、子どもの頃は、伸び伸びと自由闊達に育てたい、また、子どもは鍛錬し、厳しくすることが大人の務めであるなどと、色々な考えがあります。

立派に育ててほしい、という大人の願いのままに子どもが成長してくれれば良いのですが、そういかないことが多いところに親や教師の悩みがあります。子どもに問題が起こると、子育ての努力を過保護であると言われたり、放任したからだと言われたりします。

過保護、放任、極端な管理の3つは、ともに子どもの自律性や自主的精神を尊重しない点で共通しています。自分が子どもだった頃を忘れて、大人の一方的な考え方や、一時的な気持ちだけで子どもに当たっていないか、自分が子どもだった時の気持ちを思い起こしてみることも時には必要かと思えます。

何事もさじ加減は難しいものですが、子どもにとって、今必要なことは何かを考えながら、子育てを続けるしかないと思います。私を含め、子育ての悩みは尽きません。しかし、子どもの成長のため頑張るしかありませんね。

The Little Prince

